

R6 年度事業報告

財団の概要

当財団は、将来の人づくりを共通の目的として財団法人福岡県教育文化振興財団、財団法人福岡県青少年科学教育普及協会、財団法人福岡県奨学会の3財団の統合により、平成16年4月1日から財団法人福岡県教育文化奨学財団として、旧財団が行ってきた教育文化事業、科学教育事業及び奨学事業を引き継ぐとともに効率的・効果的な事業を展開した。

福岡県から公益財団法人への移行認定を受け、平成25年4月1日から公益財団法人福岡県教育文化奨学財団に名称を変更し、新たにスタートした。

第1 教育文化事業

1 事業概要

県内の教育文化団体等が実施する県民の教育文化活動を促進するための事業に対し、経費の一部を助成する「教育文化助成事業」を実施した。

併せて、財団が自主的に県民の教育文化活動を振興するために、教育文化団体等と共催で行う事業の経費の一部又は全部を負担し、当該団体等に執行させる「教育文化振興事業」を実施した。

2 事業の状況

(1) 教育文化助成事業

ア 青少年活動助成事業（決算額 643,169 円）

青少年体験活動助成事業

青少年の自主性、社会性、芸術性を培う多様な体験活動事業及びボランティアに関する学習や実践活動のための体験事業に対して助成した。

イ 地域文化活動助成事業（決算額 2,932,290 円）

(ア) 芸術文化活動助成事業（決算額 2,848,290 円）

芸術文化団体・グループ等が地域の文化振興のために実施する事業及び地域における芸術文化活動の活性化に不可欠な人材の育成を図る事業に対して助成した。

(イ) 文化財保存活動助成事業（決算額 84,000 円）

県下に残る民俗芸能等の文化財を後世に継承するための保存活動及び後継者養成活動等に対して助成した。

ウ 教職員研究助成事業（決算額 637,000 円）

教育研究団体等が、教育課題の解決に向け自主的・先導的にを行い、かつ、有益な成果が期待される研究・実践活動に対して助成した。

エ その他の助成事業（決算額 300,000 円）

中学校の文化部活動に対し、予算の範囲内で助成した。

(2) 教育文化振興事業

ア 生涯学習振興事業（決算額 2,400,000 円）

(ア) 子どもの学校外教育支援事業（決算額 2,100,000 円）

自然体験やボランティア活動、読書活動など、体験や活動の機会の提供や、子どもの活動を支えるボランティアの育成活動を支援した。

(イ) 国際交流支援事業（決算額 300,000 円）

小・中学校等へ外国人や海外経験をもつ日本人を派遣し、国際理解の促進と国際的視野をもった人材育成を図る事業を支援した。

イ 文化振興事業（決算額 5,163,460 円）

芸術文化事業

青少年の豊かな心を醸成するため、芸術鑑賞の機会を提供する事業や博物館等の独自の機能をいかした地域の活性化に繋がる事業を支援した。

ウ 顕彰事業（決算額 0 円）

申請団体なし。

エ その他の振興事業（決算額 600,000 円）

財団設立の趣旨に沿う教育文化に関する創造的な学習、研究等の諸活動を特別に予算の範囲内で支援した。

第2 科学教育事業

1 事業概要

当財団は、福岡県が実施する指定管理者制度に基づき、久留米市中央公園内に設置された福岡県青少年科学館の管理・運営を行っている。

福岡県青少年科学館は、平成2年4月1日に設置され、同年5月1日に開館した。施設は、展示部門、プラネタリウム部門及びライブラリー部門を備えている。展示部門においては、展示品目150点を常設展示している。プラネタリウム部門においては平成18年4月にレーザープロジェクター、平成29年2月に高精細デジタルプロジェクターを導入・稼働し、学習番組及び

一般番組・全天周映画を放映するほか、天文や科学教育普及に関する各種事業のより一層の充実を図っている。ライブラリー部門においては、科学に関する書籍を揃え、科学技術に関する興味・関心・意欲の向上を図っている。

展示更新については、平成7年度に「地球」コーナー、平成8年度に「乗り物」コーナー、平成9年度に「地球にはたらく力」コーナー、平成10年度に「宇宙」コーナー、平成11年度に「マルチメディアシステム」コーナー、平成12年度に「コンピュータ」コーナーの更新を行った。また、平成18年度に独立行政法人物質・材料研究機構による「ナノテクノロジー解説装置」、平成23年度に「環境と自然の力」コーナー及び「先端科学技術」コーナーを新たに設置した。平成29年度は「宇宙」、「礎となる科学」、「わくわくラボ」、「自然と環境」、「キッズ」、「ロボット・科学技術」コーナーの更新を行い、令和元年度は「宇宙」、「わくわくラボ」、「ロボット・科学技術」コーナーのそれぞれ一部更新を行い、青少年に科学との出会いを促すとともに、本県科学教育の普及・振興に努めているところである。

平成22年5月1日には、開館20周年を迎え、記念講演会や記念イベント週間、プラネタリウム学習番組の制作、特別企画等を行った。同年7月29日には入館者数が累計500万人を、平成25年8月12日には累計600万人、平成28年11月19日には累計700万人、令和元年9月28日には累計800万人を達成した。令和2年5月1日には、開館30周年を迎え、記念講演会や特別企画を行った。

2 施設の利用状況

(1) 展示部門の利用状況

令和6年4月1日から令和7年3月31日までの利用者数は、一般75,756名、児童・生徒等91,983名、計167,739名となっている。

(2) プラネタリウム部門の利用状況

令和6年4月1日から令和7年3月31日までの利用者数は、一般33,896名、児童・生徒等42,035名、計75,931名となっている。

(3) 利用者数の合計

一般109,652名、児童・生徒等134,018名、計243,670名となっており、県民への科学教育の普及・振興に成果を上げているところである。

3 実施した事業の概要

県民への科学教育の普及・振興、特に青少年の科学への興味と関心を高め、科学する心を培うため、次の事業を実施した。

(1) 特別展・企画展・作品展

ア 特別展

(ア) 「めざせ!!『ヤバイ生き物』博士!!〜ハチュウ類・両生類・毒をもつ生き物の世界〜」

(令和6年7月13日〜9月1日)

ハチュウ類、両生類、毒をもつ生き物など30種類以上の生体展示やデジタルインタラクティブコンテンツなどの体験型展示などを通して、生物の体の特徴や分布、生体、環境に適應する能力などを学ぶことで、青少年の科学に対する興味・関心を喚起し、併せて県民への科学教育の普及・振興を図る。

参加者 61,085名 出展数 48点

(イ) 「スペースパーク〜宇宙を感じるワク☆ドキ!体験〜」(令和7年3月1日〜4月6日)

様々なミッションや映像を通して、体を動かし楽しみながら宇宙を感じることができるとともに、宇宙への挑戦の歴史とこれからの、模型や展示物を通して詳しく学ぶことで、青少年の科学に対する興味・関心を喚起し、併せて県民への科学教育の普及・振興を図る。

参加者 17,390名 出展数 10点 ※令和7年3月31日現在

イ 企画展

「宇宙船メーケル号からのSOS!〜壊れた宇宙船を修理せよ〜」(令和6年9月28日・29日、10月5日・6日)
リアルな冒険を楽しめる3DCGやAR、プログラミングを活用した体感型展示を通して、工芸技術に興味・関心をもたせ、併せて県民への科学教育の普及・振興を図る。

参加者 615名 出展数 7点

ウ 作品展

「福岡県小・中学生科学研究作品展」(令和6年10月19日〜11月3日)

県内の小・中学生が夏休みに行った理科の自由研究作品を募集、表彰、展示し、科学教育普及活動の一助とし、県民への科学教育の普及・振興を図る。

参加者 5,870名 出展数 52点

(2) コスモシアター運営

天文に対する興味・関心を高めるとともに、天体に関する知識・理解を深めるため、学校の理科学習の一助としての「学習番組」(学習指導要領に準拠した学習プログラムを含む。)及び迫力あるCGデジタル映像を駆使した一般向けの「一般番組」「全天周映画」の放映を行った。

ア 学習番組

・幼児向け番組「オズのまほうつかい〜星空のまほうの国へ〜」、「ジャックとまめの木〜星の国だいぼうけん〜」
「ケンタのほしさがし イルカのドルとだいぼうけん」、「手ぶくろを買いに」
「こぐま座のティオ 星空だいぼうけん」

- ・小学校中学年向け学習番組「忍たま乱太郎の宇宙大冒険 with コズミックフロント☆NEXT 土星めぐりでシャッターチャンス」の段」
- ・小学校4年生向け学習プログラム 教科書の内容の学習+「ワク・ドキ!探検☆大宇宙 ガリレオとめぐる太陽系の旅」
- ・小学校6年生向け学習プログラム 教科書の内容の学習+「ワク・ドキ!探検☆大宇宙 ガリレオとめぐる太陽系の旅」
- ・中学生向け学習プログラム 教科書の内容の学習+「ワク・ドキ!探検☆大宇宙 アインシュタインとめぐる銀河系の旅」
- ・環境学習番組「みずものがたり」

イ 一般番組・全周映画

- ・妖怪ウォッチ♪コマさんからのSOS!ブラックホールヘレッツゴーだニャン♪
- ・宇宙なんちゃらこてつくンプラネタリウム
- ・おしりたんていコズミックフロント〜コズつとなぞとき!うちゅうのおおどろぼう〜
- ・プラネタリウム ドラえもん 宇宙の模型
- ・ダイナソーミュージアム〜レイとネアンのドキドキ恐竜アドベンチャー〜
- ・まだ見ぬ宇宙へ
- ・VOYAGER ボイジャー終わりなき旅
- ・宇宙のオアシスを探して〜奇跡の星への旅〜

(3) 科学教育普及活動

ア 科学教育普及事業

(ア) スプリングサイエンスフェア(令和6年5月3日〜6日)

特設のサイエンスショーや科学工作教室、特別イベント等を実施した。

参加者 4,607名

(イ) おもしろサイエンスフェア(令和6年11月16日・17日)

特設のサイエンスショーや科学工作教室、特別イベント等を実施した。

参加者 1,200名

(ウ) サイエンス教室[6回](令和6年5月〜令和6年12月)

小・中学生に対し、様々な実験や観察をととして、科学のおもしろさを体験させ、自ら科学する心を培うことを目的として実施した。

参加者 89名

(エ) ものづくり工房[11回](令和6年5月〜令和7年2月)

小・中学生に対し、電子部品や力学的機構、工学的な技術を用いた科学工作等をととして、ものづくりに対する楽しさを味わわせ、科学に対する興味・関心を高めることを目的として実施した。

参加者 207名

(オ) プログラミング教室[16回](令和6年6月〜令和7年2月)

小・中学生に対し、ロボットプログラミング体験をととして、機械制御に対する楽しさを味わわせ、科学に対する興味・関心を高めることを目的として実施した。

参加者 135名

(カ) 科学工作教室[127回](令和6年4月〜令和7年3月)

当日の入館者に対し、比較的簡単でしかも興味深い工作の場を提供することで、科学への興味・関心を高めることを目的として実施した。

参加者 5,685名(臨時科学工作教室を含む。)

イ 天文教育普及事業

(ア) 星空教室[8回](令和6年4月〜令和7年3月)

季節の代表的な星や星座の探し方を学習し、コスモシアター(プラネタリウム)で実習を行うとともに、話題の天文現象や星座早見盤の使い方等について解説した。

参加者 207名

(イ) 市民天体観望会[12回](令和6年4月〜令和7年3月)

コスモシアターにおいて季節の星座や話題の天文現象等について解説するとともに、実際の星空で、季節の星座解説や天体望遠鏡を使った月や惑星、星雲・星団等の観察を行った。

参加者 1,085名

(ウ) 星と音楽のタベ[2回](令和6年7月6日、12月21日)

小学生以上を対象に、プラネタリウムを使った季節の星座解説と生演奏による楽しいコンサートを行った。

参加者 329名

(エ) 星兄 爆笑!プラネタリウムショー(令和6年11月4日)

日本全国で爆笑プラネタリウムを展開している星兄こと田端英樹氏を招へいし、小さな子どもから大人まで楽しめるユーモアたっぷりの星座解説を行った。

参加者 174名

(オ) 天文ボランティア養成講座[4回連続講座](令和6年9月7日・14日・21日・28日)

天文ボランティア養成のため、天文学や天体観測機器に関する知識・技能を習熟させ、また観望会運営に関する実習等を行い、観望会を実施できる資質を身に付けたボランティアを養成するための研修を実施した。

参加者 10名

(カ) JAXA科学講演会(臨時)「世界発!月面ピンポイント着陸を成し遂げたSLIMの挑戦」(令和6年7月7日)
講師にJAXA宇宙科学研究所副所長/教授の藤本正樹氏、聞き手に著者・歴史学者の北川智子氏を招き、SLIMプロジェクトや最新の月面探査について学ぶことで、宇宙や科学技術に対する興味・関心を高め、科学教育の普及・振興を図った。

参加者 132名

(キ) 科学講演会「もっとみんなに、星を見てホシ〜!!」(令和7年2月24日)

講師にRKB毎日放送アナウンサー・気象予報士の龍山康朗氏を招き、気象・宇宙・天文現象などについての体験談や未来を創る子どもたちへのメッセージを通して、天文や宇宙、科学に対する興味・関心を高め、科学教育の普及・振興を図った。

参加者 158名

(ク) 天体観測室公開(真昼の天体観測)[14回](令和6年4月~令和7年3月)

コンピュータ制御のクーデ式屈折天体望遠鏡(口径200mm)を使って、太陽の黒点、金星等の観察を行った。

参加者 445名

ウ 連携事業

(ア) 指導者支援事業[2回](令和6年5月~令和7年3月)

青少年教育指導者等の社会教育関係職員や教員等の学校教育関係者及び科学の普及に携わる者に対し、福岡県青少年科学館が有するサイエンスショーや科学工作、星座の探し方等のノウハウを提供した。

参加者 12名

(イ) ネットワーク推進事業[14回](令和6年6月~令和7年2月)

県立社会教育施設や関係機関、地元久留米市や近隣市町村等が実施するイベントや科学教育普及事業において、職員を講師として派遣するなどの支援を行った。

参加者 1,982名

(ウ) 科学館ボランティア(通年)

科学ボランティア(科学工作教室、ものづくり工房で活動)及び天文ボランティア(市民天体観望会で活動)の活動の場を提供した。

令和6年度活動者数(登録者数)

・科学ボランティア:26名

・天文ボランティア:39名

(エ) 研修生受入

○中学生の「職場体験」:2名

○高校生の「インターンシップ」:8名

○大学生の「インターンシップ」:3名

○大学生の「博物館実習」:1名

(4) 調査研究・広報活動

利用者の便宜を図るために、科学に関する資料の調査・収集、レファレンスサービス等を行うとともに、科学館ニュース等の定期刊行物及びホームページによる科学情報の提供を行った。

また、教育事務所、市町村教育委員会、学校との連携を一層強化して、県内及び隣県の団体利用の促進を図るとともに、新聞・雑誌等のマスメディアを活用して積極的な広報活動に努めた。

第3 奨学事業

1 事業概要

当財団においては、奨学事業として奨学金等貸与事業及び福岡県学生会館の管理運営を行っている。

令和6年度において、高等学校入学支度金は、1,529人に対し117,850,000円を、また高等学校奨学金は、7,813人に対し1,928,892,000円を貸与し、貸与総額は、2,046,742,000円であった。

一方、奨学金の返還については、返還義務額6,415,994,265円に対し3,412,757,921円の返還があり、回収率（返還期到来分）は53.19%であった。なお、繰上返還分を含む返還収入額は、3,669,727,311円であった。

2 事業の状況

(1) 奨学生の募集

高等学校奨学金の予約募集については、中学校在学中に市町村教育委員会を通じて募集を行い、同奨学金の在学募集は4月入学後から5月10日まで、緊急募集は4月入学後、随時募集を行った。

また、奨学生の選考については、奨学生選考委員会を開き、奨学生の採用を決定した。（緊急募集を除く。）

なお、令和6年度の出願率及び採用状況は次のとおりである。

区分	定員 (人)	出願者数(人)				出願率 (倍)	採用決定者数(人)			
		予約 募集	在学 募集	緊急 募集	合計		予約 募集	在学 募集	緊急 募集	合計
支度金	1,520	3,116	—	—	3,116	2.05	1,862	—	—	1,862
奨学金	2,778	3,521	787	27	4,335	1.56 (1.27)	2,805	665	26	3,496
合 計	4,298	6,637	787	27	7,451	1.73 (1.54)	4,667	665	26	5,358

※ 高等学校奨学金出願率の上段 : 予約・在学・緊急募集を合わせた出願率
下段 () 書き: 予約募集のみの出願率。

(2) 奨学金の貸与

奨学金は、本人名義の普通預金口座に3ヶ月分ずつ年4回に分けて振込を行った。令和6年度貸与額及び貸与実績は、次のとおりである。

区分	国・公立、私立、学年別		貸与額	
高等学校	支度金	国・公立	50,000円	
		私立	100,000円	
	奨学金	国・公立	1・2・3・4・5年生	(自宅)月額 18,000円 15,000円 10,000円
				(自宅外) " 23,000円 20,000円 15,000円
				(自宅) " 25,000円 15,000円 10,000円
		私立	1・2・3・4・5年生	(自宅外) " 30,000円 20,000円 15,000円

令和6年度 貸 与 金

区分		学年	国・公立 私立別		当初予算額		貸与実人員	貸与金額		
					人員	金額				
高等 学 校	支 度 金		国・公立		人	千円	人	千円		
					670	33,500	701	35,050		
			私立		850	85,000	828	82,800		
			計		1,520	118,500	1,529	117,850		
	奨 学 金	1	国・公立	自宅	2,778	699,744	990	189,270		
			自宅外	23			6,012			
			私立	自宅			1,494	413,130		
			自宅外	106			36,450			
			2	国・公立			自宅	898	173,861	
			自宅外	18			4,823			
		2	私立	自宅	2,598	662,772	1,599	444,115		
			自宅外	94			32,430			
			3	国・公立			自宅	952	183,535	
			自宅外	14			3,636			
			私立	自宅			1,433	395,600		
			自宅外	100			33,690			
		3	国・公立	自宅	2,543	636,396	44	7,557		
			自宅外	2			552			
			4	私立			自宅	33	1,435	
			自宅外	0			0			
			5	国・公立			自宅	10	1,968	
			自宅外	3			828			
		4	私立	自宅	47	12,360	0	0		
			自宅外	0			0			
			計	国・公立			8,187	2,068,500	2,954	572,042
私立			4,859	1,356,850						
合計			入学支度金	1,520			118,500	1,529	117,850	
			奨学金	8,187			2,068,500	7,813	1,928,892	

貸与総額 2,046,742 千円

(3) 奨学金の返還

適切な返還計画に基づき円滑な返還促進を行った。滞納者に対しては、毎月督促状を発送し、架電督促や滞納債権督促員による訪問督促を実施した。また、9月にわたり返還がない者2,172名に対して支払督促申立予告を行い、510名に対して支払督促申立を行った。さらに、243名に対して強制執行手続開始を通告した。
加えて、法的措置後の長期滞納者(2,408人、1,172,190,778円)に対して、債権回収会社による回収業務の委託を行い、1,679件、31,124,299円を回収した。

令和6年度の回収状況は、次のとおりである。

区分	返 還 期 日 別 分										返 還 収 入 額					
	返還該当額 ①		滞り等額 ②		返還義務額 ③		返還収入額 ④		未返還額 ⑤(③-④)		返還期日到来分④ (内報分)		繰上返還分⑥		計 ⑦(④+⑥)	
	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額
高等学校 (支度金)	87,180 (30,172)	7,161,733,933 (408,018,258)	9,706 (3,803)	777,060,879 (47,437,964)	81,950 (28,294)	6,384,673,254 (360,580,294)	73,083 (24,279)	3,399,402,305 (164,480,660)	8,867 (4,015)	2,985,270,949 (196,099,634)	73,083 (24,279)	3,399,402,305 (164,480,660)	2,116 (1,018)	256,290,990 (17,627,401)	75,199 (25,297)	3,655,693,295 (182,106,061)
大 学	129	83,502,995	74	52,181,984	123	31,321,011	113	13,355,616	10	17,965,395	113	13,355,616	4	678,400	117	14,034,016
計	87,309	7,245,236,928	9,780	829,242,863	82,073	6,415,994,265	73,196	3,412,757,921	8,877	3,003,236,344	73,196	3,412,757,921	2,120	256,969,390	75,316	3,669,727,311

返還回収率(④÷③) 53.19 %
 現年(返還期日が当該年度中にある返還義務額に対する返還額の割合) 89.92 %
 過年(返還期日が当該年度より過去にある返還義務額に対する返還額の割合) 17.66 %
 【参考】
 繰上返還分含む返還回収率(⑦÷③) 54.99 %

(4) 卒業奨学生に対する返還書類送付

令和7年3月卒業生に対し、令和6年10月28日に返還手続の関係書類を送った。
卒業生は次のとおりである。

区分	卒業生数
高等学校	2,592人

(5) 福岡県学生会館の運営

ア 福岡県学生会館

所在地 神奈川県横浜市青葉区荏田西一丁目14番の2
建築物 鉄筋コンクリート造5階建
1室1人部屋
収容人員 150人
英彦寮(男子居住区) 100人
筑紫寮(女子居住区) 50人

イ 福岡県学生会館入館選考状況

募集期間が令和6年11月1日から令和6年11月26日までの早期募集と、令和6年12月25日から令和7年2月3日までの通常募集を行い、学生会館運営委員会で選考し、内定者の辞退においては、随時、追加で募集を行い、次のとおり入館者を決定した。

区分		募集定員	申込者数	入館決定者数
福岡県学生会館	英彦寮	60人	81人 (14人)	60人 (14人)
	筑紫寮	27人	44人 (9人)	27人 (9人)

※ 申込者数・入館決定者数の上段 : 早期・通常募集及び追加募集をあわせた人数
下段 () 書き : 早期募集のみの人数